



「ほんとうの宝」

ほんとうの宝は思いがけないところにかくれている
それをさがすには手がいる足がいる そして感じる心がある
考えるアタマがある ほかでもないあなた自身の
ほんとうの宝は誰のものでもない みんなのもの
ちからをあわせて 見つけるもの つくるもの



谷川俊太郎作 「ほんとうの宝」一部抜粋

追悼 詩人 谷川俊太郎さんが11月13日、92歳で亡くなりました。ご冥福をお祈りするとともに、谷川さんが遺された作品にあらためて触れていきたいと思えます。上記の詩には続きがあります。作品から探してみてください。

これからの学びをつくっていくために—OECD 国際フォーラムからの報告第2弾

前回の続き、OECD 国際フォーラム、「これからの新しい学習、そして教育のありかた」について話し合った内容の報告第2弾です。

*報告の中で話題に出ているソーシャルスキルは、OECD 研究者のスライドでは以下のよう
に紹介されていました。

(日本語訳は仮訳です。)

Social Emotional Skill (社会情動的スキル)

Collaboration (連携協力) ~ 共感 (Empathy) 信頼 (Trust)
Task Performance (タスク達成能力) ~ 粘り強さ (Persistence)
達成動機 (Achievement Motivation)
責任 (Responsibility)
自己コントロール (Self Control)
Open Mindness (心を開く力) ~ 好奇心 (Curiosity) 創造性 (Creativity)
寛容さ (Tolerance)
Emotional Regulation (感情調整) ~ 感情コントロール (Emotional Control)
ストレス耐性 (Stress Resistance)
楽観性 (Optimism)
Engaging With Others (他者とかかわる力) ~ アサーティブネス (Assertiveness)
社交性 (Sociability) エネルギー (Energy)

では、OECD フォーラムのグループⅡからの報告内容を紹介します。この内容は、あくまでフォーラムでどのようなことが話し合われたのかについて情報を共有し、私たちがこれからの教育について考える種をもらうという趣旨で紹介しているものであることをご理解ください。

★★グループⅡからの報告★★

研究者：ソーシャル・スキルで先生から教えてほしい、重要なものは何か？

一生徒：Self-management そして Feel free to express

研究者：ストレスを感じて自己肯定感を下げてしまう場合はどんなとき？

一生徒：テストの点が落ちた時

一生徒：周りの人が自分より優れていると感じた時

研究者：兄弟でも出来のいい悪いの差があると、（自分も）つらかった経験がある。

研究者：多くの生徒が受験のために塾に行くが、皆が行くので、結局は自尊心の低下につながっているのではないか。塾はお金もかかる。生徒が学校で、自信をつけられるシステム・環境を考えないといけない。

社会の変化にあわせて、評価や教師も変わっていかないといけない。VUCA の時代なので、SEL が大事である。

*VUCAについて

VUCA という用語は、変動性 (Volatility)、不確実性 (Uncertainty)、複雑性 (Complexity)、曖昧性 (Ambiguity) の頭文字をとった造語で、米国で 1990 年代に冷戦が終結し、複雑で曖昧な状況に突入したことを反映して、不安定な国際情勢を分析するために使われるようになったといわれています。そして近頃、急速に変化する現代社会を説明するために用いられるようになりました。

参考：Nathan Bennett&James Lemoine(2014)What VUCA Really Means for You, Harvard Business Review.、野村総合研究所ウェブサイト (<https://www.nri.com/jp/knowledge/glossary/lst/alphabet/vuca>)。



↑当日のグループディスカッションの様子

*SELについて

SELについて概要を紹介します。

SELとはSocial and Emotional Learning 社会情動的学習のことで、1994年、アメリカの非営利組織「Collaborative for Academic, Social and Emotional Learning (CASEL)」によって体系化された概念で、学業、職業、そして人生全体の成功に必要なスキルの基盤として提唱されたもの。SELは5つの主要領域からなる。

SELの5つの主要領域

- 1 自己認識 (Self-Awareness)
自分の感情や考えを認識し、それが行動に与える影響を理解する力。
- 2 自己管理 (Self-Management)
感情をコントロールし、ストレスに対処し、目標を設定して達成する能力。
- 3 社会的認識 (Social Awareness)
他者の視点を理解し、多様性に対する共感や尊重を示す力。
- 4 人間関係スキル (Relationship Skills)
効果的なコミュニケーション、協力、問題解決、そして健全な人間関係を築く力。
- 5 責任ある意思決定 (Responsible Decision-Making)
倫理的で建設的な選択をし、個人や社会にポジティブな影響を与える力。

出典：Collaborative for Academic, Social, and Emotional Learning (CASEL)
<http://casel.org/> (日本語仮訳)

では、グループIIの報告を続けます。_____

研究者：先生にはどんな社会情動的スキルが必要か。

一生徒：自分は教師になりたいが、異なる年齢の人と関わると、自己管理能力も上がるのではないかと思う。

研究者：学習者はどのように変わる必要があるか。

一生徒：生徒は受け身で、先生は答を与えてしまう。生徒はアクティブになる必要がある。

研究者：どうしたら生徒はアクティブになるか。

一生徒：Students are afraid of being failures.
Teaches are afraid of what students would do “unpredictability” .

一生徒：周りの人が、自分の意見を受け入れてくれる環境があるといい。

一生徒：班活動で意見をまとめると、自分だけの意見じゃないから、自信がつく。自信をもって話せる。先生も(個人の意見より)予測がつくので安心できる、生徒も安心できる。

一生徒：プロジェクト学習では、生徒がアクティブにならないといけない。

一生徒：プロジェクトは達成感がある。

研究者：なぜ日本の生徒はシャイなのだろうか？

一生徒：生徒は間違いを犯すのを恐れている。

研究者：アメリカでは、間違いを犯すのは学習の中心 (Center of learning) 。私たちは先人の間違いから学んできた。もし、私たちが間違いを犯さなければ、次の世代は私たちから何を学ぶのか？

研究者：リサーチによると、最近の生徒は集中力が短いと言われている。昔は 30 分ぐらい集中して話が聞けたが、それは本当か？

一生徒：最近の歌がサビからはいるので、本当だと思う。

研究者：これは教師にとってのチャレンジ。集中の続かない生徒を、どう教えるか。

意見：グループワーク、答を出さない、テクノロジーの活用等。

研究者：先生をどうサポートできるか。

意見：研修、先生同士の助け合い(得意なことで支え合うような)を、学校内、地域内、県単位などで促進する必要があるのではないか。

II グループ 研究者講評

SEL を育むカリキュラムをつくるための「スペース」を、教師がもてるようになる「システム」づくりが大切。教師が一人でできるものではない。先生へのサポートが必要。また、生徒たちがエージェンシーをもって活動しても、サポートは必要。(例：まったくオープンではなく、選択させるなど。)

広くて薄いカリキュラムから、狭くても深いカリキュラムへの移行が大切。生徒がエンゲージする(かかわる)ことができるように。バランスが大事。

☆ このようなテーマで生徒と教師、そして研究者がともに話し合うことはそうそうないことです。話し合いの場が創られ、そこに参加者が集まったことで、このような議論が可能となったのは、素晴らしいことでした。

一連の報告についてはあともう一回、続きを書かせてください。

さて、議論の一部を共有した私たちです。学校でも、このような話し合いをもちませんか？皆さんが希望して声をかけてくれれば、場をつくれます。是非声をかけてください。

また、学校では現在、生徒会の定例会と教員の SAH コア会議(原則毎週金曜日放課後)の生徒、職員の相互乗り入れを行おうとしています。相互に、「参加させて」、「参加してほしい」と声をかけ、互いの情報を交換していく場を設けようというものです。また、毎週の相互の定例会議について情報交換をし始めています。引き続き、「協働」のしくみづくりへの協力をお願いします。(文責：SAH 統括室 中村 理恵)

